

# みんなの行動が久留米を変える(1)

市民活動と聞くと”自分にもできるのだろうか”と考えてしまう人も少なくないと思います。

その一歩を踏み出した4名の皆さんを紹介します(このページの情報は2に続きます。)



ひがしこくぶ ふれあい食堂  
東国分校区社会福祉協議会  
ホリエ ノリコ  
堀江 範子 さん



ふれあい食堂チラシのデザイン

## 地域で子どもを育む環境に

05

もともと空き店舗を利用して高齢者の立ち寄りカフェのような場を考えていましたが、「子ども食堂」が全国的な話題になり、高齢者だけでなく子どもたちや障害者の方なども含め、地域の交流を目的に平成28年2月「ひがしこくぶ ふれあい食堂」を立ち上げました。毎月1回コミュニティセンターを使用し、ボランティア10人程でカレーを作っています。

時間前から多くの子どもたちが訪れ、食後は遊んだり、宿題をしたり、本を読んだりして過ごしています。最近は、子どもたちや地域の方が平均70~80人訪れており、高齢者の方には子どもたちの歓声に元気をもらって好評です。「子どもたちが大人になって地域(東国分)の中で育ったことを思い出してくれるといいな」というのが私たちの願いです。



ゴコチ  
gocochi  
マツオ ヒロコ  
松尾 博子 さん



## 誰にとっても居心地のいい地域社会へ

私には、ダウン症と自閉症を併せ持つ、中学2年生になる子どもがいます。障害のある子どもをもつお母さんたちの”居心地のいい場所をつくりたい”と平成24年にgocochiを立ち上げました。平成28年は、保護者・教育・療育・福祉関係者など、子どもと関わる支援者が参加する発達障害に関する定期学習会や定例会を行いました。

そして、平成29年2月には、障害のある人もない人も、お互いの存在や価値を認め合うことを目的として「PRISMix」というステージライブ(ファッションショー、ダンス、朗読、バンド演奏などたくさんの方の演目を織り交ぜたステージライブ)を開催します。誰にとっても居心地のいい地域社会になることを目指し、これからも活動を続けます。

# みんなの行動が久留米を変える(2)



NPO法人  
くるめ日曜市の会  
クリハラ サキコ  
栗原 咲子 さん



## 仕事以外でも人と繋がれる場所

06

出産を機に、人や地域と関わりを持って生きていく必要性を感じるようになりました。仕事以外でも人と繋がれる場所はないか、と出会ったのが「くるめ日曜日」でした。毎月最終日曜日、ほとめき通り商店街の明治通り沿いのアーケードを借りて開催しています。出店された筑後の産物を、単に売買する場ではなく、訪れた人たちがふるさとの良い物を手にして

会話が生まれる居場所を目指しています。私は市外出身だからこそ、久留米には産物や場所があり、あたたかな人柄等の魅力に溢れていると日々感じています。活気ある街づくりを通じて、未来を担う子どもたちが「この街に生まれ育って良かった」と誇れる街にしたいと思っています。



サトイス・ツナガル  
キド シンノスケ  
城戸 しのすけ さん



## 廃材を活用したイスづくり

有明工業高等専門学校に通学しながら「久留米と大牟田で何かできたらいいな」と思っていたとき、建築学科の先輩が参加していた「まちなか万博(街なかを盛り上げる学生アイデアの公開コンペ)」を機に活動に加わりました。活動は廃材を活用したイスづくり「サトイス・ツナガル」です。平成28年7月に久留米シティプラザ六角堂広場でみなさんと一緒にイスづくりを

行うイベントを開催しました。作ったイスは久留米の街歩きや外出先での休憩などに使ってもらえたらと思っています。街なかでのモノづくりを通じて、様々な人とつながりが持てればと考えています。今後も活動が広がるような「きっかけ」を期待して、楽しんでやっていきたいです。